

一中学生徒の最善最高の自覚と実践 NO8(R5.11.13)

○校長より 『アリとキリギリス』 ～後期中間テストを終えて これから～

イソップ物語の有名なおとぎ話です。暑い夏の間、アリはせっせと働き、冬に備えて食べ物を集めていました。「こんな楽しい夏に、働いてばかりじゃもったいないよ」とキリギリスは遊んでばかりいました。しかし、冬になり食べ物のなくなったキリギリスは困ってしまった、という話です。キリギリスも早く気づいていれば、ギリギリになって困ることはなかったろうにと思ってしまう。人生も同じだと思います。特に大人になる前に「早く気づいてコツコツ頑張れば、自分の持っている可能性を発揮できて、将来がよりよいものになる」とつくづく思います。でも、私もそうでしたが、子どもの頃にはなかなか気づかないものです。「家庭学習」ということもそうです。「道標」を提出する生徒は確実に増えています。ただ、家庭学習の内容を見ると「自分のために工夫して勉強している道標」も多くありますが、中には「1 ページ埋めて出しさえすればいいという道標」もあるようです。「道標」は出せるようになったのに、もったいないと思えて仕方ありません。出しさえすればいい勉強なら効果はほとんどありません。1 ページ完全に埋まってなくても、中身の充実したもの(問題集の問題を解いて答えだけ書いて答え合わせをしているような勉強)の方が力がつくと思います。何しろ、やらされる勉強ではなく“自分のための勉強”を、テスト前だけでなく毎日コツコツやっていく。今さら頑張っても無理だと思っている人もいるかもしれませんが、そんなことはありません。「実力の差は小さい 努力の差は大きい」是非、アリさんスタイルで頑張って、自分の可能性を十分発揮してほしいと願っています。

☆最善

～1年合唱コンクール～



☆最高

～2年合唱コンクール～



☆自覚

～3年合唱コンクール～



☆実践

～心のきずなを深める集会～

